

CON-TECH

ひょうご

兵庫県まちづくり技術センターだより

47号

Jan.2016

設立20周年記念特集号

20周年記念事業の紹介

20年のあゆみ

建設技術部

まちづくり推進部

下水道事業部

埋蔵文化財調査部

企画部

平成28年 新春メッセージ

～ 兵庫創生に挑む ～

兵庫県知事

井戸敏三



新年あけましておめでとうございます。

国内では急速な人口減少・少子高齢化、世界では地域紛争が激化する一方で、国境を超えた経済の一体化が進展しています。内外とも変化の激しい今、兵庫においても、新たな発展の枠組みが求められています。

昨秋、本県は、5年間の地域創生戦略を策定しました。今後50年で100万人以上の人口減少が見込まれます。少子化と高齢化も年々進行します。その中でも兵庫が活力を保ち、将来への希望を持てる地域を目指さねばなりません。それだけに、地域の多様な資源を最大限に活用して、ふるさと兵庫を愛する人々とともに、「安全安心で元気なふるさと兵庫」を創らねばなりません。

第一は、安全安心の確保。安全こそが県民生活と社会経済活動の基^{もと}です。ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進め、危機に強い地域を創ります。また、医療、福祉の更なる充実により、安心して暮らし続けられる体制を整えます。

第二は、多彩な人材が活躍できる社会づくり。女性、若者、高齢者、障害者の一層の社会参加を促します。そのためにも、子育て環境の整備や、個性を伸ばす教育に努め、県民一人ひとりの自己実現を目指します。

第三は、活力あふれる地域づくり。科学技術基盤を活かした新産業の創出、大都市近郊を活かす農林水産業の確立など、産業の競争力強化に取り組みます。また、高速道路網の整備、広域観光圏の形成などにより、内外との交流の拡大につなげます。

未来は、私たちの手で変えられる。

そのため、戦略では、自然増や社会増対策を行うとともに、人口が減る中でも実質的な経済成長を実現するという目標を掲げました。地域、地域の持つ多様な資源を活かしつつ、兵庫としてのまとまりを発揮する「多様性と連携」を基本に、皆さんと共に挑みます。「兵庫創生」に向けて、さあスタートを切りましょう。

各地域 資源を活かし連携し めざすは兵庫の新しい展開

新年のごあいさつ

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

理事長 濱田 士郎



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、兵庫県まちづくり技術センターの事業推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

新年におきましても技術力の維持、向上、継承に努め、「元気で安全・安心な兵庫の社会基盤づくり」の実現に貢献し続けるよう全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

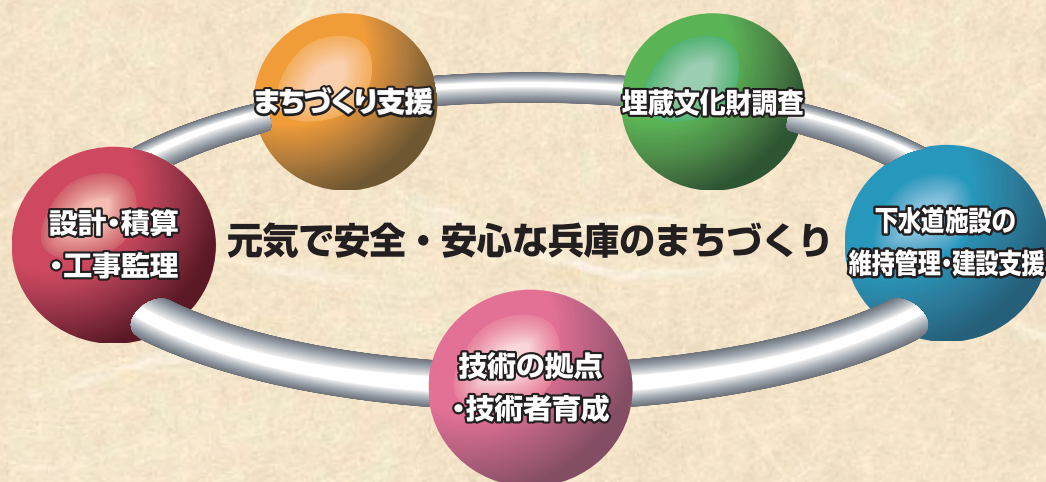
特に、インフラの老朽化や多発する豪雨、津波等の自然災害に対応するため、橋梁点検業務の地域一括発注、ひょうご橋守隊の創設、災害時の初動対応を応援する「ひょうごE-DASH」の創設など、市町支援のための新規事業を展開するとともに、まちづくり支援、流域下水道維持管理業務や埋蔵文化財調査業務など、総合的なまちづくり支援を展開していきます。

当センターは、阪神・淡路大震災を契機に平成8年4月、兵庫県及び県内市町における建設技術の向上と公共事業の効率的な推進を支援する専門機関として設立し、以来、県・市町はじめ関係のみなさまの温かいご支援を戴き、お陰をもちまして設立20周年を迎えます。

これを機に中・長期戦略「[CTC](#) Vision2025」を策定し、センターが担う使命・役割と目指すべき方向性を明らかにするとともに、今後も自治体のニーズに的確に対応する総合的な行政支援機関としての役割を果たしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますとともに、積極にご活用いただきますようお願い申し上げます。

高度な技術力を有する公益財団法人として 兵庫の社会基盤整備を総合的に支援します。

～ 効率的な社会基盤の整備・管理、開発と文化財保存の調和を実現 ～



Contents もくじ

20周年記念事業の紹介 1

◆ 記念事業イベント一覧 ◆ イベント実施結果 ◆ 設立20周年記念式典のお知らせ

20年のあゆみ ～各部の紹介～

● 建設技術部 3 山手幹線芦屋川横断工区街路工事 (国) 250号 飾磨バイパス 市川浜手大橋建設工事 (国) 178号 余部道路 船越トンネル建設工事 新湊川災害復旧助成事業 千種川水系鞍居川 金出地ダム建設事業 円山川水系六方川 特定構造物改築事業 六方川排水機場整備工事 総合評価支援業務	● 下水道事業部 11 包括的民間委託の導入 市町維持管理支援の本格展開 下水道普及啓発活動の推進
● まちづくり推進部 7 (市町建設支援) 市町支援体制の推移 PDCAサイクルによる一貫した老朽化対策支援 (市町まちづくり、景観形成支援) 都市計画及び土地区画整理事業の支援 住民主体のまちづくり・景観形成の支援	● 埋蔵文化財調査部 13 一般国道483号北近畿豊岡自動車道八鹿豊岡南道路に伴う南構遺跡発掘調査工事 (二) 千種川水系佐用川 河川災害復旧助成事業に伴う平福御殿屋敷跡発掘調査工事 姫路駅周辺地区総合整備事業に伴う豆腐町遺跡他発掘調査工事 池田古墳の出土品整理作業
	● 企画部 15 積算共同利用システムの運営 CG技術による支援業務 ニーズに合わせた研修の拡充 防災エキスパートの派遣 ひょうごE-DASH による災害復旧支援



● 設立目的

兵庫県及び県内の市町の建設技術の向上と公共事業の効率的な推進を図るとともに、土地区画整理事業、まちづくり活動等の支援、流域下水道事業及び流域下水汚泥処理事業に係る維持管理等を行うことにより、より質の高い社会基盤づくり及びまちづくり並びに生活環境の改善及び公共用水域の水質の保全に寄与することを目的とする。

● シンボルマーク

Construction Technology Center for Regional Development のイニシャル「CTC」を上下のウェーブで囲んでいます。このウェーブは、南北を海に面した兵庫県の姿とともに“新しい風”と“新しい波”を表し、兵庫県まちづくり技術センターの発展的な姿を象徴しています。

■ 表紙写真説明 雪の祥雲寺地区(豊岡市)を背景に飛ぶコウノトリ

写真提供／兵庫県立コウノトリの郷公園 URL <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/>



兵庫の技術力をリードする総合拠点

平成8年4月に設立された公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター(設立当初は財団法人兵庫県建設技術センター)は、平成28年4月をもちまして設立20周年を迎えます。

この機会に当センターではこれまでの取り組みを振り返るとともに、今後の事業展開を見据えるため、平成27年から設立20周年記念事業として各種イベントを実施しており、平成28年には集大成となる記念式典を始め、インフラツアー、体験バスツアー、「橋の日」イベント等、各種イベントを企画しています。

20周年記念事業の紹介

記念事業イベント一覧

平成28年
2月

ひょうご景観まちづくり実績確認ツアー
～地区指定の効果・助成の効果を確認～

場所 赤穂市坂越地区／たつの市龍野地区

平成28年
4月

春の下水道施設見学会

場所 加古川上流浄化センター

平成28年
5月

ひょうご景観まちづくり実績確認ツアー
～地区指定の効果・助成の効果を確認～

場所 多可町加美区岩座神地区
篠山市今田町上立杭地区

平成28年
7～8月

夏の下水道施設見学会

場所 武庫川上流・下流浄化センター
加古川下流浄化センター／揖保川浄化センター

平成28年
7月下旬

遺跡発掘調査体験

場所 鍛冶田遺跡(姫路市網干)を予定

平成28年
7月下旬

夏休み親子「水と暮らし」体験バスツアー
～キミも水道と下水道のマメ博士になれる～

平成28年
7月下旬

ひょうごインフラツアー
～「建設・埋蔵文化財調査」センター業務～

平成28年
8月5・6日

「橋の日」イベント

～橋を知り、橋とふれあい、橋を大切にする～

イベント内容(予定)

- 技術報告会
- 橋梁補修体験
- 橋梁模型コンテスト
- 展示会
- 点検デモ

場所 橋の科学館・舞子公園(神戸市垂水区)

平成28年
8月下旬

ひょうごインフラツアー

～これからの土木の担い手へ向けて～

場所 中播磨・西播磨地域を予定

平成28年
9月

下水処理場維持管理セミナー

～維持管理のポイント～

平成28年
9月下旬

ひょうごインフラツアー

～「建設・まちづくり」センター業務～

場所 神戸・東播磨地域を予定

平成28年
10～12月

ひょうご景観まちづくり実績確認ツアー
～地区指定の効果・助成の効果を確認～

場所 豊岡市城崎温泉地区
豊岡市出石町城下町地区

平成28年
10月

設立20周年記念事業「報告会」

平成28年
11月

設立20周年記念式典

- さわやかコンサート
- 基調講演
- 記念フォーラム

イベント実施結果

夏休み親子「水と暮らし」体験バスツアー

～キミも水道と下水道のマメ博士になれる！～を開催しました。

平成27年7月31日、センター設立20周年記念イベントとして、上水道と下水道の各施設を親子で見学体験し、水の大切さや水の循環について学んでいただく無料体験バスツアーを開催しました。夏休みの自由研究にも役立つと参加者から好評を得ました。

上水道施設は神戸市水道局のご協力を得て千灯浄水場及び貯水池を、下水道施設は当センターが県から維持管理業務を受託している武庫川下流浄化センターを見学体験していただきました。



センター設立20周年記念講演会

「～設計不具合の防ぎ方～」を開催しました。

市町の橋梁点検・補修の担当者が直面している課題をテーマとした講演会を平成27年11月5日に開催しました。阪神高速道路株式会社 技術部 技術推進室長 金治英貞様のご講演に73名のご参加をいただきました。

記念講演 「設計不具合の防ぎ方

～道路インフラの品質向上と長寿命化を目指して～

開催日時 平成27年11月5日(木) 9:00～12:00

開催場所 (公財)姫路・西はりま地場産業センター
じばさんびる 9F 会議室

講演者 阪神高速道路株式会社 金治 英貞 氏

講演内容 ・落橋の事例紹介
・設計不具合に対する阪神高速道路(株)の取組
・設計品質向上に向けた事例と審査体制

設立20周年記念式典 (予定)

開催日時 平成28年 11月 開催場所 神戸市内で開催予定

式典内容

● さわやかコンサート

オープニングコンサートを予定しています。

● 基調講演

今後の社会基盤整備のあり方をテーマとした基調講演を予定しています。

● 記念フォーラム

インフラマネジメントのあり方をテーマに様々な専門家をパネリストに迎えて、パネルディスカッションを予定しています。

※式典の詳細につきましては、決まり次第、ホームページ等でお知らせします。



建設技術部

20th Anniversary
20年のあゆみ

(二)千種川水系千種川(赤穂郡上郡町柏野)

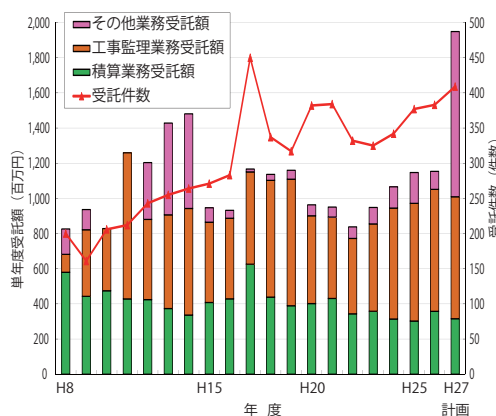
これまでの主な取り組み

建設技術部では、当センターの設立当初から、県や市町などが実施する公共土木工事、設備工事に係る数多くの設計・積算・工事監理業務を受託し、県下の社会基盤整備に大きく貢献してきました。

設計支援業務では、豊富な技術情報と経験を活かして設計コンサルタント等と対等に設計協議を行い、積算業務では、守秘性を確保しつつ適切に工事価格を積算しています。また、工事監理業務では、関係法・規定を遵守して良質な社会基盤施設の安全かつ工期内の完成を実現させてきました。

さらに、平成22年度からは総合評価技術審査業務による発注者支援を行い、また地震や水害などに伴う県管理施設の災害復旧事業についても、積算・工事監理業務等により積極的に支援してきました。

受託業務実績の推移



工事監理業務の主な受託実績

年度	工事名	発注者※
前半10年間 (H8~17)	播但連絡道路(5期)建設工事	道路公社
	(二)新湊川災害復旧助成事業関係工事	神戸土木
	災害対策補正地下連絡道路建設工事	防災企画
	(一)市川瀬止堰改築工事	姫路土木
	(国)482号蘇武トンネル(村岡工区)建設工事	浜坂土木
	(国)178号香住道路香住トンネル建設工事	柏原土木
	(一)岩屋谷川災害復旧助成工事	上郡土木
	(国)176号鐘ヶ坂トンネル建設工事	神戸土木
	(主)姫路上郡線土都あゆみ橋建設工事	多可町
	(二)鳥原川石井ダム建設工事	
後半10年間 (H18~27)	(国)赤坂三原線八千代トンネル建設工事	
	(国)250号駒路バイパス市川浜手大橋建設工事	姫路土木
	(都)山手幹線芦屋川横断工区街路工事	西宮土木
	(主)加古川小野線東播磨道関係工事	加古川土木
	(一)加古川源特事業関係工事	加東土木
	(二)洲本川源特事業関係工事	洲本土木
	(一)六方川排水機場整備工事	豊岡土木
	(一)与布土川与布土ダム建設工事	道公社
	速阪トンネル天井板撤去工事	加古川土木
	(一)豊川排水機場改築工事	光都土木
	(二)千種川緊急河道対策関係工事	光都土木
	(二)鞍馬川金出地ダム建設工事	新温泉土木
	(国)178号余部・浜坂道路関係工事	たつの市
	(市)姫野川保川御津線市場坂岩トンネル建設工事	

事例 1

山手幹線芦屋川横断工区街路工事

事業概要

都市計画道路山手幹線は、戦後間もない昭和21年(1946年)に都市計画決定された、延長約30kmの東西幹線道路であり、阪神間地域の緊急時における救済・援助活動を支え、防火・防災帯といった都市の防災機能を向上させるなど、重要な役割を担う道路として、早期の全線に渡る供用開始が望まれていました。

工事監理業務

● 発注者:西宮土木事務所 ● 工事箇所:芦屋市松ノ内町~月若町 ● 完 成:平成22年3月

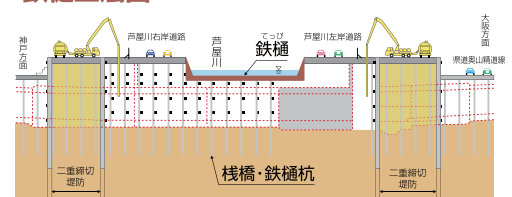
この工事は、未供用であった芦屋川との交差部に、トンネル部(L=131.5m)を含む、立体交差施設(L=303.5m)を整備するもので、当センターでは積算・工事監理を行いました。工事を通年で施工するため、芦屋川との交差部を「鉄樋工法」で施工しています。この工法では、鉄樋の設置後にトンネル部の開削工事に着手し、堤体開削時には二重締め切りを設けることで、早期の工事完了を図りました。

※「鉄樋工法」とは、鉄製の樋を設置して川の水を受けつつ、その下でトンネルを構築する工法です。

鉄樋は治水の安全上、非出水期間に半川締め切りを反復施工することにより設置し、河川の受け替えを完了しました。



鉄樋工法図



事例 2

(国)250号 飾磨バイパス
市川浜手大橋建設工事

事業概要

国道250号の姫路市白浜町から飾磨区宮に至る区間(L=約3km)は幅員が狭く、姫路市臨海部の工業地帯へのアクセス道路として大型車の通行が多いことから慢性的な渋滞が発生していました。このことから、渋滞の解消および地域の活性化・産業の発展のために、平成2年から飾磨バイパスの整備が進められました。

工事監理業務

- 発注者: 姫路土木事務所 ● 工事箇所: 姫路市飾磨区中島
- 完 成: 平成21年9月

市川浜手大橋は、渡河部273m、取付高架部を含めると365mとなる長大橋です。飾磨バイパス整備事業の中ほどに位置する主要な構造物で、二級河川市川の最も河口寄りに架橋するもので、当センターでは積算・工事監理を行いました。

この橋の設計にあたっては「目的物の機能を低下させることなくコストを縮減する」設計VE方式が採用され、当時は、兵庫県内で初めて民間施工部門の委員を公募により選定する事例となりました。

このVE委員会で検討を重ね、上部工の形式は、「鋼4径間連続



ダブル合成細幅箱桁橋」、床版は「鋼コンクリート合成床版」を採用し、主桁の小数化(4桁→3桁)を実現しました。その他、「鋼殻ニューマチックケーソン基礎」、高耐久性塗装等、複数の新技術を導入した結果、原案よりコストは約10%縮減され、工期も約8ヶ月短縮することができました。

また、工事監理では、鋼コンクリート合成床版は鋼材温度の影響によりコンクリートの品質低下が懸念されるため「ひび割れを生じさせないこと」、「コンクリートの材料分離や床版内に空隙を生じさせないこと」を品質管理の重要課題とし、その解決の取り組みとして、①コンクリートの配合検討、②コンクリートの打込み時の鋼材温度管理及び締固め時間の管理、③コンクリートの養生等に留意し、対策を講じることによりコンクリートの品質を確保することができました。

事例 3

(国)178号 余部道路
船越トンネル建設工事

事業概要

山陰近畿自動車道は、平成6年に地域高規格道路の計画路線として指定を受けた延長約120km(内兵庫県46km)の自動車専用道路であり、高規格幹線道路網のミッシングリンクを解消するとともに、救急医療、災害時の支援、迂回路機能を確保する「命の道」として期待されています。

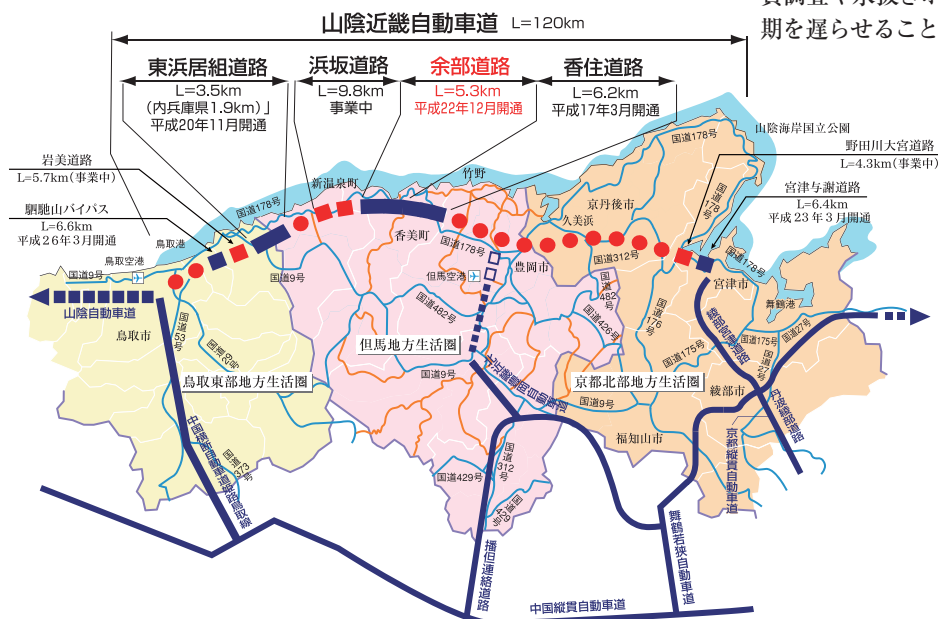
現在、兵庫県内では香住道路、東浜居組道路、余部道路が開通し、浜坂道路が整備区間として事業中です。

工事監理業務

- 発注者: 新温泉土木事務所 ● 工事箇所: 美方郡香美町
- 完 成: 平成22年12月

船越トンネルは、香住ICと余部ICを結ぶ余部道路(L=5.3km)の内、延長2,983.5mのトンネルで、起点側の矢田工区(L=844.5m)、終点側の余部工区(L=2,139.0m)の両抗口から掘削する迎え掘りで計画され、当センターでは、両工区において積算・工事監理を行いました。

余部工区では、大量湧水帯約300mが存在しましたが、発注者・受注者・センターが知恵を出し合い、三次元弾性波探査による地質調査や水抜きボーリング等の補助工法を活用するなどして、工期を遅らせることなく、無事工事を完了することが出来ました。



船越トンネル起点側坑門(矢田工区側)



船越トンネル終点側坑門(余部工区側)

事例 4

新湊川災害復旧助成事業

事業概要

(二)新湊川は六甲山を源に神戸市南部の都市部を南下し、過去に幾度となく溢水・氾濫を繰り返していましたが、長田区の荻藻川合流点から上流は人家密集地のため、ほとんどが未改修の状態でした。

平成7年の兵庫県南部地震により擁壁護岸の転倒や会下山トンネルの変形など甚大な被害を受けたため、荻藻川合流点からトンネル部を含む兵庫区菊水橋上流までの未災箇所を含めた2,503mについて河積の拡大を図るほか、安全で快適な水辺空間の整備をあわせた災害復旧助成事業が実施されました。

事業中の平成10年、11年には豪雨による浸水被害に遭うなど苦勞の末、平成14年に竣工しています。

工事監理業務

- 発注者:神戸土木事務所 ● 工事箇所:神戸市長田区～兵庫区
- 完 成:平成14年11月

当センターでは、トンネル工区とその上流の橋梁5橋を含む兵庫工区において積算・工事監理を行いました。

新湊川トンネルは、未固結地盤の大坂層群からなる土砂地山に計画され、掘削工法はNATM工法を採用し、住宅密集地である吐口側は既存トンネルを拡大、呑口側は営業鉄道直下を通過するため、線形を考慮して既設トンネルから分離するルートで施工しました。このような厳しい条件下で、パイプルーフをはじ

め多様な補助工法を駆使したことは言うまでもなく、周辺への影響を考慮した厳しい管理や対応が必要不可欠でした。

また、守る・防ぐ治水対策だけでなく、湊川隧道の坑門復元や隧道保存、階段や防災緑地整備など、受け継ぐ・親しむ・備えるところにも配慮されていることも大きな特徴です。



現在の吐口側坑門



吐口側坑門の被災状況



震災前の吐口側坑門

事例 5

千種川水系鞍居川 金出地ダム建設事業

事業概要

金出地ダムは、昭和51年の台風17号による流域の水害に端を発した治水対策に加え、昭和61年より開発事業が進められた播磨科学公園都市の水源確保を目的とした多目的ダムとして計画され、平成2年に工事に着手しました。ところが平成15年1月にダム事業による水源開発の中止が決定されたため、多目的ダムとして作成された事業計画は大幅な見直しを迫られることになりました。

その後、ダム建設計画の見直しが進む中、平成16年の台風21号により鞍居川流域で床上浸水130棟、床下浸水281棟という甚大な被害が発生したことから、地元住民からダムの早期完成を求める約4900人の署名が集まり、平成17年7月にダム事業の継続が決定しました。しかし、利水事業者の撤退によって必要な総貯水量容量が縮小したため、堤高を当初の69mから62.3mにする等、計画が変更されることになりました。

その後、平成21年に「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換により検証対象となりましたが、そこでもダムの必要性が認められ、平成23年度にダム本体工事に着手しました。

工事監理業務

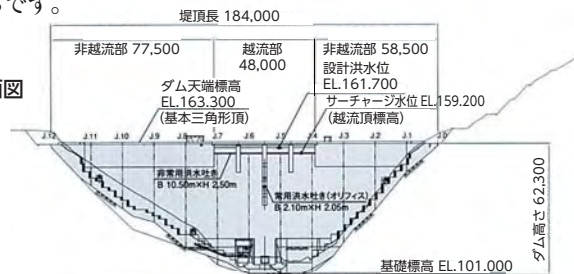
- 発注者:光都土木事務所 ● 工事箇所:赤穂郡上郡町金出地
- 完 成:平成27年度末予定

当センターでは積算・工事監理を行い、平成24年から骨材採石場の選定、コンクリート配合試験(室内、実機)による配合の決定、基礎地盤線の確認を行い、平成25年3月にコンクリートの初

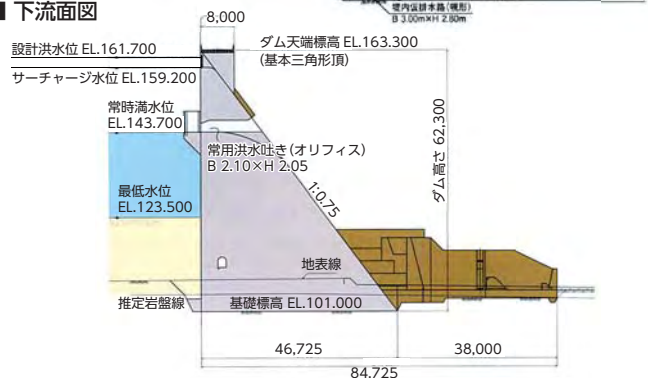
打設を行いました。その後、打設前検査及び鉄筋組立完了検査を重ね、無事に平成27年3月に打設完了を迎えました。現在は平成28年1月末からの試験湛水に向け、仮排水路閉塞を行い、年度末の完成を目指しているところです。



標準断面図



下流面図

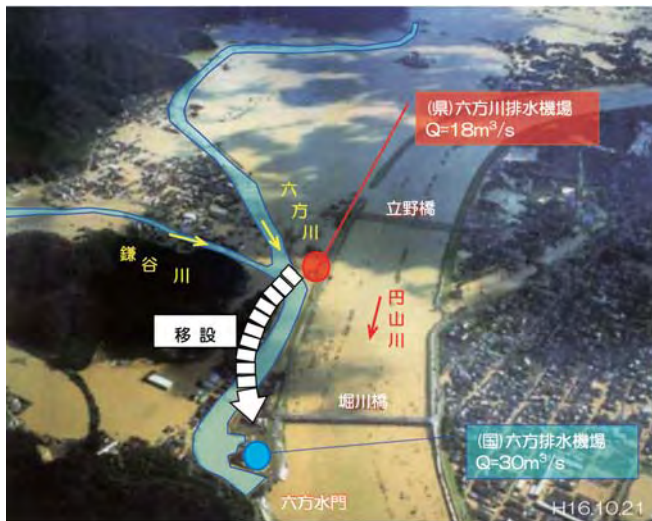


事例 6

円山川水系六方川 特定構造物改築事業 六方川排水機場整備工事

事業概要

六方川は、これまで多くの洪水被害を受けており、特に平成16年10月の台風23号では、床上浸水1,486戸と甚大な洪水被害を受けました。既設の六方川排水機場は昭和33年に設置され、その効果を発揮してきましたが、設置後約50年が経過し老朽化が進んでいることから、国交省六方排水機場敷地内に新たに改築移設することにより、六方川流域の内水被害の軽減を図ることを目的に事業が着手されました。



平成16年台風23号浸水状況

工事監理業務

- 発注者：豊岡土木事務所 ● 工事箇所：豊岡市日撫
- 完 成：平成25年3月

本排水機場本体の地盤は、支持層（軟岩層）までの深さ約40mに渡り、N値10未満の沖積砂質土層からなる軟弱地盤であるため、鋼管杭基礎を採用し、「中掘り最終打撃工法」で施工を行いました。

また、排水ポンプは立軸斜流ポンプという汎用的な形式ですが、ポンプの口径が2,400mmと非常に大きいため、製作工場でも性能試験をすることができません。そこで、模型試験を行うこととし、実物ポンプの1/8の大きさの模型ポンプを製作して性能確認を行いました。



立軸斜流ポンプ



排水機場全景

事例 7

総合評価支援業務

当センターでは、平成22年度より総合評価落札方式の技術審査を支援してきました。平成26年度には品確法の改正や、兵庫県総合評価落札方式が改定されたこともあり、これまでより幅広く総合評価技術審査が必要となることから、これを支援することによって、さらに公共工事の品質確保に貢献します。

業務概要

評価項目の把握整理、提案内容の確認整理、評価基準の作成、審査・採点・とりまとめ、評価項目(案)の作成

特 長

○技術審査ノウハウの蓄積

平成22年度以降、県及び市町の総合評価を支援しており、技術審査に関するノウハウを蓄積してきました。

○支援チームを組み、担当者を支援します。

センター内で支援チームを構成し、短期間に集中して技術審査を実施してきました。

○公共工事品質確保技術者（I）

積算及び工事監理業務を多数手掛けており、この知識と経験を活かして公共工事の品質確保に向けた総合評価技術審査の支援業務を行ってきました。さらに、当センターには多数の公共工事品質確保技術者（I）有資格者がおり、適正に技術審査を行うことができます。

○公益財団法人として公平・公正な審査

当センターは公益財団法人であり、県と同様に守秘義務を遵守しています。さらに第三者機関として技術審査を行うことで、より公平・公正に審査手続きができます。

年度	受託先	工事名	総合評価の種類
H22	加東土木	清水坂トンネル（多可工区）	標準型
H23	新温泉土木	新桃観トンネル（西工区）	〃
	光都土木	金出地ダム	〃
	丹波土木	西紀ダム	〃
H24	神戸土木	中尾谷川(中尾谷地区(1))斜面对策工事	簡易型（I）
	多可町	山野部坂トンネル	標準型
H25	新温泉土木	余部・新桃観トンネル（東工区）、久谷第2トンネル	〃
	新温泉土木	大庭トンネル、大庭大橋上部工、久谷第1トンネル	〃
	道路公社	遠阪トンネル覆工補修・天井板撤去工事	〃
	加古川土木	高砂北条線 道路改良工事（硬岩掘削工法）	〃
	姫路土木	西蒲田トンネル	〃
H26	新温泉土木	対田第3・二日市トンネル、長谷橋上部工	〃
H27	姫路土木	船場川 調節池導水路工事	〃
	尼崎港管理事務所	新川水門設置工事（土木工）	〃



20th Anniversary
20年のあゆみ

まちづくり推進部 (市町建設支援)

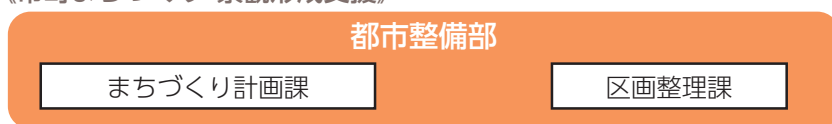
町道釜屋海岸線 釜屋橋(美方郡新温泉町釜屋)

市町支援体制の推移

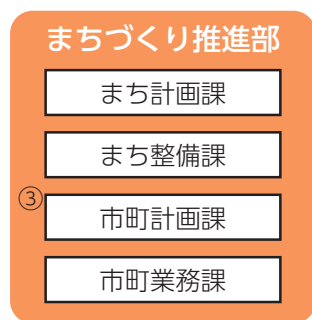
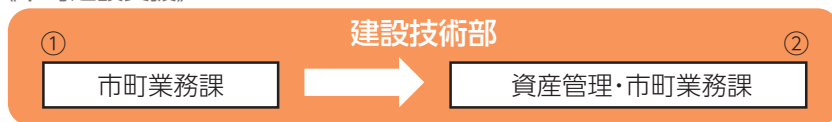
これまで当センターは、時代の要請や市町からの要望に応えるため、組織を改編し対応してきました。

今年度から、市町支援体制を強化するため、新たに「まちづくり推進部」を設置し、「建設技術部 資産管理・市町業務課」を「市町計画課」と「市町業務課」に拡充・再編するとともに、「都市整備部 まちづくり計画課、区画整理課」を「まち計画課」と「まち整備課」に改称し、4課体制により、市町の抱える様々な課題に対し、強力に支援していきます。

《市町まちづくり・景観形成支援》



《市町建設支援》

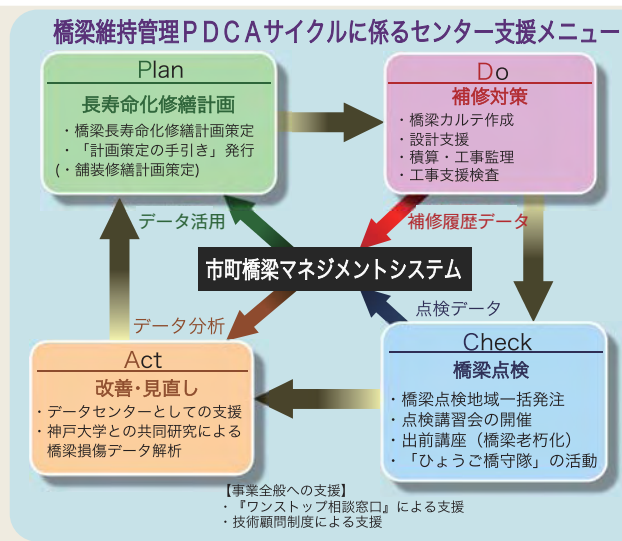


- ①平成8年度：市町施工の土木工事の設計、積算および工事監理業務等を実施するため、『市町業務課』を設置
- ②平成20年度：橋梁長寿命化修繕計画策定に本格的に取り組むため、『資産管理・市町業務課』に改名
- ③平成27年度：市町支援体制を一層強化するため、多様なニーズがある老朽化対策を集約して担う『市町計画課』と市町の積算・工事監理に特化した『市町業務課』に分割

主な支援内容

当センターでは、市町の職員不足や経験不足等の課題に対応するため、様々な支援や業務の受託を行っています。

その中でも、老朽化が懸念される橋梁の維持管理を主体的に継続して支援するために、橋梁長寿命化修繕計画策定、橋梁カルテ作成、設計支援、橋梁定期点検地域一括発注、橋梁老朽化に関する技術講習会や点検講習会の開催、積算、工事監理等の業務を受託し、PDCAに沿った支援を幅広く行っています。



PDCAサイクルによる一貫した老朽化対策支援

Plan

橋梁長寿命化修繕計画策定業務

橋梁長寿命化修繕計画は、従来の事後的な修繕および架替えから予防保全的な修繕および計画的な架替えへと円滑な政策転換を図り、橋梁の長寿命化並びに修繕および架替えにかかる費用の縮減や予算の平準化を図ることを目的としたものであり、橋梁維持管理における柱の一つです。

平成26年度で県内39市町において計画策定を行っており、2巡目の橋梁定期点検に基づいた修繕計画の策定も進んでいます。

また、平成28年度からは、橋梁長寿命化修繕計画策定の経験を生かして、舗装修繕計画策定にも取り組んでいきます。



橋梁長寿命化修繕計画成果品



学識経験者意見聴取状況

Do

橋梁カルテ作成、設計支援、積算・工事監理業務 等

橋梁カルテは、点検結果や補修履歴等から適切な補修設計を実施する上で必要となる情報を分かりやすく取りまとめたもので、補修設計業務の円滑な委託等に資することを目的としています。

設計支援業務は、市町がコンサルタント等へ委託した補修設計業務が適切に履行されるよう、協議・打合せにセンター職員が同席しアドバイスするものです。

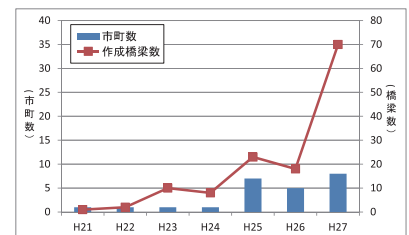
積算業務は、詳細設計から兵庫県土木工事標準積算基準書に基づき工事発注のための積算設計書の作成を行うものです。

工事監理業務は、土木工事における現場監理を市町職員に代行して行うものです。

特に橋梁カルテ作成業務については、皆様のおかげで年々受託が増えています。



橋梁カルテ成果品



橋梁カルテ作成業務受託実績の推移

支援状況

(H27年12月現在)

- 橋梁カルテ作成業務 : 15市町 132橋
- 設計支援業務 : 8市町 32橋
- 積算業務 : 14市町
- 工事監理業務 : 12市町

Check

橋梁定期点検(地域一括発注)業務

橋梁定期点検(地域一括発注)業務は、平成26年7月の道路法施行規則の改正による定期点検の近接目視義務化に対応したものです。市町から橋梁定期点検業務をセンターが受託し、業務の一部である点検業務を一括して業者に発注するとともに点検成果の横断的チェックおよび診断業務をセンターが実施することで、点検成果の品質向上を図ります。さらに、センターが橋梁点検車を点検業者に無償貸与することでコスト削減も図っています。

平成27年度は、25市町から3,543橋に対し要望があり、来年度以降も市町の要望に合わせて対応していきます。



橋梁定期点検成果品



橋梁定期点検状況

Act

市町橋梁マネジメントシステムの利活用

橋梁長寿命化修繕計画における劣化予測等の改善・見直しを適切に行うため、橋梁諸元、点検データ、補修履歴を一元的に管理・蓄積する「市町橋梁マネジメントシステム」を構築し時系列で整理しています。

平成26年度から、橋梁だけでなくトンネル、路面性状などについても点検データの一元管理に取り組んでいます。

また、平成27年度から、約2ヶ年掛けて蓄積した点検データを基に神戸大学と共同研究を行い、効率的な長寿命化修繕計画の改善に取り組むこととしています。



まちづくり推進部 (市町まちづくり、景観形成支援)

はじめに

市町まちづくり、景観形成支援については、昭和47年に設立した「(財)兵庫県土地区画整理協会」を前身として、平成2年には都市景観の形成に関する業務を行うため「(財)兵庫県都市整備協会」に改称し、平成7年には阪神・淡路大震災の復興まちづくりを支援する「ひょうご都市づくりセンター」の設置を経て、平成15年に「(財)兵庫県建設技術センター」と統合し、その後も都市整備部として、支援を行ってきました。

都市計画及び土地区画整理事業の支援

これまでの取り組み

これまでに都市計画及び、土地区画整理事業を中心とした市街地整備事業への支援を行い、特に土地区画整理事業においては事業の円滑な推進を図るため、立上げから完了までの事業全般にわたり、市町及び土地区画整理組合に一貫して、技術支援を行ってきました。また、まちづくりに関する相談業務や市町担当職員のスキルアップを図る研修事業などソフト面での支援も行っています。

主な事業の紹介

市町まちづくり推進調査支援制度

平成15年に市町まちづくり推進調査支援制度を創設し、市町からの要請を受けてまちづくりの初期段階での支援を行っています。

支援制度では、土地区画整理事業等市街地整備事業の円滑な事業化の推進や、都市計画制度(規制・誘導)による良好なまちづくりの実現を目指し、まちづくり基本構想や事業化検討調査を市町との協働で行います。

これまでに、13市町19地区で活用され、小野市王子南地区、黒川西地区、加西市西高室地区、姫路市天満菅原地区では、制度活用後に土地区画整理事業を実施しています。



勉強会の様子

土地区画整理事業の事例

【都市施設の整備】

道路、水路及び公園といった都市基盤施設が未整備で、防災上危険な地区や低未利用地を含む地区において、良好な市街地形成を目的に都市基盤施設の整備・改善及び宅地の利用増進を図ることを目的として土地区画整理事業を行います。

主な実施箇所 宝塚市中筋JR北地区、相生市相生駅南地区など



宝塚市中筋JR北地区



豊岡市稲葉川地区

【災害復旧・防災】

地震や河川の氾濫といった災害の被災地において、復興やその後の防災を目的に河川改修(築堤)や幹線道路の整備を土地区画整理事業と併せて行うことにより、地域の防災性の向上を図り、安全な市街地の形成を行うことができます。

主な実施箇所 芦屋市西部第二地区、豊岡市稲葉川地区など

【工場跡地の土地利用転換】

産業構造の転換に伴う工場跡地や低未利用地において、街区の再編、低未利用地の集約や都市基盤整備を図ることにより、商業施設や公益施設等の立地を促進し、地域の活性化を推進することを目的として土地区画整理事業を行います。

主な実施箇所 姫路市飾磨拠点地区、川西市中央北地区など



姫路市飾磨拠点地区

住民主体のまちづくり・景観形成の支援

これまでの取り組み

平成7年に発生した阪神・淡路大震災被災地での住民主体のまちづくりを支援するため「ひょうご都市(まち)づくりセンター」を設置して、「復興まちづくり支援事業」を実施し、県全域では住民主体のまちづくりの展開を促すため「まちづくり支援事業(県補助事業・H11～20年度)」を実施しました。

また、平成2年度より「景観基金」を設置して修景助成事業を実施し、平成13年度からは支援メニューを拡充して「景観形成支援事業」として県下の景観形成地区等での地区住民による景観形成の推進を支援しています。

まちづくり技術センターへの統合(平成15年度)や、まちづくり計画課(現まち計画課)への業務移管を経て、住民主体のまちづくり支援・景観形成支援などを公益事業として実施しています。

主な事業の紹介

復興まちづくり支援事業・まちづくり支援事業

阪神・淡路大震災被災地における住民主体による復興まちづくりへの取り組みに対してまちづくりアドバイザー派遣、まちづくりコンサルタント派遣、まちづくり活動助成により支援を行ってきました。

当時災害救助法の適用を受けた10市10町(現12市)で、建築物の共同・協調化再建、被災マンションの再建支援、地区のまちづくり計画への支援を行いました。(平成7～29年度予定)

また、平成11年度からは県下全域を対象としたまちづくり専門家派遣、まちづくり活動助成を行う「まちづくり支援事業」を実施し、市街地での都市整備や地区計画等に向けた取り組み、郊外地域での活性化計画、景観条例や緑条例、特別指定区域制度等に関連した地区住民によるまちづくりの取り組みを支援しました。広域的なまちづくり活動を行う団体(NPOなど)への支援も行いました。(平成11～20年度)



地区計画による土地利用や町並みの保全



自らまちを点検、まちづくりの検討

《支援実績件数》

復興まちづくり支援事業	アド派遣	コン派遣	活動助成	空地整備助成	(H7.9-27.3) 計
件数(延べ)	456	602	964	12	2,034
金額(百万円)	110	971	413	17	1,511
まちづくり支援事業	アド派遣	コン派遣	活動助成	広域助成	(H11.4-21.3) 計
件数(延べ)	331	117	201	59	708
金額(百万円)	85	164	44	28	321

ひょうごまちづくり発掘支援事業

復興まちづくり支援事業等の実施に際して設置したまちづくり専門家バンク(専門家登録)と住民主体のまちづくり支援のノウハウを活かして本年度より新規に立ち上げた事業です。

本年度は、市町より情報を得て選定した5地区への派遣を行い、まちづくりの掘り起こしや取り組みを支援します。



まちづくり課題地区へのアドバイザー派遣

《支援実施状況(H27年度)》

	アドバイザー派遣	コンサルタント派遣	計
地区	4	1	5
事業費計	3,000 千円		
派遣市町	宝塚市・加古川市・高砂市・西脇市・丹波市		

東日本大震災に係るひょうごまちづくり専門家派遣事業

平成23年3月に発生した、東日本大震災被災地での復興まちづくりに、阪神・淡路大震災でのまちづくり支援の経験・教訓を活かしてもらうため、まちづくり専門家により構成したチームを派遣しました。(平成23～27年度予定)

被災地での様々なまちづくりの相談を受けるとともに住民主体での取り組みを啓発し、まちづくりに取り組む地区への指導等を行ってきました。



高台移転に取り組む住民の会合支援

《支援実績件数(H23.10-27.3)》

	コンサルタント派遣	アドバイザー派遣	計
件数	34 チーム 69 地区	121 回 9 地区	—
金額(百万円)	19	29	48

景観形成支援事業

昭和60年に制定された「兵庫県都市景観の形成に関する条例」を補完し、県下の良好な景観形成を推進するため、景観形成地区等において、建物外観整備への修景助成、景観形成に関する専門家派遣を行う修景支援、住民団体等による景観形成の取り組みへの活動助成を行っています。(平成2年度～)

また、住民団体支援の一環として「景観まちづくり交流会」のほか、専門家や行政職員を対象とした視察研修や支援事例報告会を実施しています。



歴史的町並みの外観保全



景観まちづくり交流会

《支援実績件数(H2.10-27.3)》

	修景助成	修景支援	活動助成	除却助成	計
件数(延べ)	870	82	15	2	969
金額(百万円)	541	23	5	3	572



下水道事業部

20th Anniversary
20年のあゆみ

武庫川上流浄化センター（神戸市北区道場町）

概要

下水道事業部は、平成21年4月1日にセンターに統合した(財)兵庫県下水道公社（昭和60年4月設立）の業務を継承し、流域下水道事業及び流域下水汚泥処理事業に係る維持管理業務や市町が実施する公共下水道事業の支援業務、下水道知識の普及啓発、排水設備工事責任技術者試験等を行うことにより、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全に大きく貢献しています。



これまでの主な取り組み

●流域下水道事業等に係る維持管理業務

業務箇所 4 流域 6 処理区 ※武庫川上流・下流、加古川上流・下流、揖保川、猪名川(管渠)
2 流域下水汚泥処理事業 ※兵庫東、兵庫西

流域下水道事業及び流域下水汚泥処理事業に係る維持管理業務を県から受託するとともに、平成20年度からは、より効率的な維持管理を行うため、包括的民間委託を試行し、翌年度から本格導入を開始しました。

●公共下水道事業に係る市町支援業務

業務箇所 11市 8町 1 組合の公共下水道事業

市町が実施する公共下水道事業の支援業務については、平成4年度から実施している建設支援や平成20年度に初めて受託した長寿命化計画策定業務等とあわせて、平成21年度から改築・維持管理支援を本格展開し、市町支援を充実させています。

●下水道知識の普及啓発(施設見学会)

業務箇所 5 浄化センター ※武庫川上流・下流、加古川上流・下流、揖保川

●下水道排水設備工事責任技術者資格試験等

試験合格者 437人 **受験講習受講者** 616人 **更新講習受講者** 6,372人 ※5ヶ年累計(H22～26)

施設見学会等による下水道知識の普及啓発や下水道排水設備工事責任技術者資格に係る統一試験や更新講習の実施等により下水道の整備及び維持管理の適正化の促進を図っています。

事例 1

包括的民間委託の導入

流域下水道事業及び流域下水汚泥処理事業に係る維持管理業務の包括的民間委託については、平成20年度の武庫川上流浄化センターでの試行後、平成21年度から平成25年度までにセンターが維持管理する全ての処理場等において、順次導入しました。

民間事業者の創意工夫を活かして、老朽化した機器の予防保全を行いながら、電気等のエネルギーを削減した効率的な運転管理を行ってきた結果、浄化センターでは、より少ない電力量で水処理を行い、放流水質も一層よくなっています。また、スラッジセンターでは、エネルギー原単位が減少するなど、環境負荷が低減されました。



事例 2

市町維持管理支援の本格展開

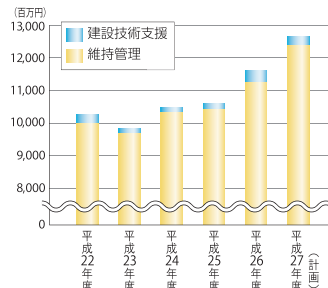
公共下水道事業に係る市町支援については、平成16年度を目標に県下で展開された「生活排水99%大作戦」を促進するため、前身である(財)兵庫県下水道公社において、平成4年度から計画、調査、設計及び工事監理等を受託し、12市6町43処理場等の建設支援を行いました。

その後整備が進み、維持管理への要請が増大する中、平成17年度から水質検査業務の受託を開始し、平成20年度には初めて長寿命化計画策定業務を受託しました。

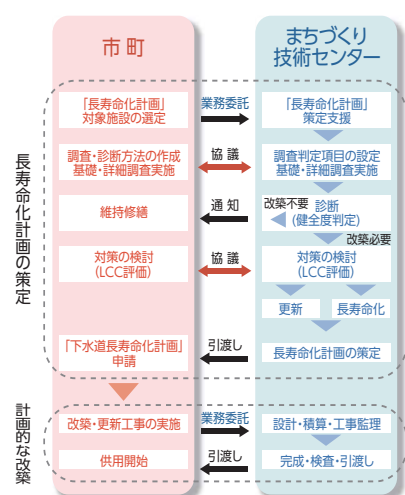
以後、改築・維持管理支援を本格展開し、長寿命化計画策定の他、処理場統廃合計画策定や汚水処理施設共同整備事業(MICS)への支援等、平成27年度までに11市6町1組合の改築・維持管理支援を行っています。



■ 受託実績



「長寿命化計画の策定」と「計画的な改築」の支援フロー



事例 3

下水道普及啓発活動の推進

県民の下水道への理解を深めるため、センターが維持管理する5つの浄化センターで行ってきた施設見学会について、平成22年度からの休日開催開始や平成23年度からの夏休み開催開始等、順次開催日の見直しを行ったことをはじめ、体験学習等による内容の充実及び学校訪問や出前講座によるPRの徹底等、下水道普及啓発活動を推進してきました。

その結果、平成27年度の施設見学会参加者数は523人(平成21年度=同37人)となりました。

また、平成27年度は、新たに水循環への理解を深める目的で上水道と下水道の各施設を巡る「夏休み親子体験バスツアー」を企画し、参加者の好評を得ました。





20th Anniversary
20年のあゆみ

埋蔵文化財調査部

鍛冶田遺跡現地説明会 (揖保郡太子町糸井)

概要

埋蔵文化財の発掘調査事業および出土品の整理事業は、文化財保護業務の一環として昭和41年から県教育委員会で実施されてきました。そのような中、発掘調査が「工事」として発注されていたことから、工事の設計・施工・管理を効率的に実施し、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整・協議を円滑・迅速に行うために土木工事の設計・積算・工事監理を専門とする当センターに発掘調査部門が移管され、平成24年度から「埋蔵文化財調査部」として埋蔵文化財発掘調査事業を実施しています。

昭和41年	県教育委員会に文化課が新設
昭和59年	埋蔵文化財調査事務所設立
平成19年	県立考古博物館に統合
平成24年	発掘調査部門をセンターに移管

これまでの主な取り組み

北近畿豊岡自動車道を中心とした国事業、県道改良事業などの県事業、新名神高速道路の西日本高速道路株式会社(ネクスコ)事業などに係る発掘調査と、その出土品の整理事業を実施してきました。また、平成25年度からは姫路市の支援事業として、豆腐町遺跡の発掘調査事業と出土品整理事業などを行っています。

年 度	発掘調査事業	出土品整理事業
	主な遺跡名と事業数	主な遺跡名と事業数
平成24年度	喜多垣遺跡 など18件	津万遺跡群 など33件
平成25年度	定谷遺跡 など19件	福島・長町遺跡 など23件
平成26年度	原田西遺跡 など16件	平田遺跡 など23件

事例 1

一般国道483号北近畿豊岡自動車道八鹿豊岡南道路に伴う南構遺跡発掘調査工事

みなみかたえ

南構遺跡は北近畿豊岡自動車道の日高南インターチェンジ予定箇所に所在しており、弥生時代後期から中世の集落遺跡と考えられています。発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代の集落は調査区の南側に集中しており、奈良時代から中世の集落はその北側に中心があることがわかりました。特に、奈良時代には墨書土器・緑釉土器・和同開珎などが出土することから、但馬国府との関係も示唆されます。

また、現状は水田となっていました。古墳時代後期には調査区の中央部を中心として、十数基の横穴式石室古墳が築かれており、同時代の集落と近接する場所に古墳が存在する当時の景観が明らかになりました。



調査の概要

所在地: 豊岡市日高町久斗

時代: 弥生時代後期～平安時代

調査期間: 平成25年7月～継続中

事例 2

(二) 千種川水系佐用川河川災害復旧助成事業に伴う平福御殿屋敷跡発掘調査工事

平福御殿屋敷跡は背後に存在する利神城跡の居館跡とされ、戦国時代から江戸時代の初期に構築されたと考えられています。本遺跡では佐用川の災害復旧事業に伴い、屋敷跡の西側の石垣を兼ねている同河川護岸部分の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、屋敷跡の南側を守る石垣が佐用川まで続くことが判明しましたが、災害復旧工事で川幅を拡幅する必要があることから、現地でこの石垣を保存することができなくなりました。そこで、新たに設ける河川の石積み修景護岸に発掘調査で発見された石垣の石材を用いるとともに、新護岸に石垣の位置を表面表示することで、災害復旧工事の実施と埋蔵文化財保護の両立を図りました。



調査の概要

所在地: 佐用郡佐用町平福

時代: 江戸時代初期

調査期間: 平成24年7月～12月

事例 3

姫路駅周辺地区総合整備事業に伴う豆腐町遺跡他発掘調査工事

JR姫路駅を中心として所在する豆腐町遺跡は、播磨国府との関連が推測される奈良時代の集落遺跡です。本遺跡では山陽本線の高架事業や駅舎の建て替え事業等に伴い、兵庫県教育委員会と姫路市教育委員会が複数回にわたる発掘調査を実施し、奈良時代の官営工房群的な性格の遺跡であることが明らかになりました。

なお、姫路駅北側の再開発事業は姫路市が主体の事業ですが、西播磨地域の中心となるJR姫路駅の前面であるとともに、世界遺産姫路城の玄関口として公共性が高いことなどから、センターでは開発事業地内に所在する豆腐町遺跡と駅前町遺跡、神屋町遺跡の発掘調査と出土品整理に係る事業の支援を行う計画としています。



調査の概要

所在地: 姫路市駅前町

時代: 奈良時代

調査期間: 平成25年11月～平成26年9月

事例 4

池田古墳出土品の整理作業

池田古墳は、5世紀に築造された全長約135mの但馬地域最大の前方後円墳であり、平成20～22年度の一般国道9号和田山バイパス建設工事に伴う発掘調査で、大量の埴輪が出土しました。

センターでは整理作業事業を平成24～26年度に実施し、家形埴輪24棟、水鳥形埴輪24体が出土したことが判明しました。この結果、水鳥形埴輪は全国で最も多い出土数となりました。

この成果は発掘調査報告書として古墳時代研究に多大な資料を提供し、整理技術員の高い技術で復元した埴輪は県立考古博物館で展示されています。

池田古墳の出土品は全国レベルの博物館が開催する展覧会などに貸し出される代表的なものとなっており、埋蔵文化財調査部の業務は県民の埋蔵文化財への理解と普及に結びつける重要な事業として展開しています。



調査の概要

所在地: 朝来市和田山町平野

時代: 古墳時代中期

調査期間: 平成20年10月～平成22年3月

整理期間: 平成23年4月～平成27年3月

企画部

20th Anniversary
20年のあゆみ

新名神高速道路 道場トンネル工事 現場研修状況(神戸市北区道場町)

これまでの主な取り組み

企画部は、積算共同利用システムや社会基盤施設総合管理システムの運営、技術顧問制度等による技術支援、技術図書の発行及び情報セキュリティ対策などに取り組んでいます。

また、建設行政やまちづくりに携わる県・市町の技術職員や実務担当者の技術力の向上を図るため、社会情勢の変化等に伴う建設行政課題を的確に捉えた効果的な研修を企画・実施しています。

さらに、近年、集中・激甚化する災害発生時の市町における初動対応を支援するため、防災や災害復旧・復興活動を支える派遣制度を創設しています。

事例 1

積算共同利用システムの運営

当センターでは、設立以降、兵庫県の土木工事積算基準書改定に伴う積算基準データ(施工単価データ)の改定支援業務を実施してきました。また、平成20年度からは、兵庫県土木工事積算単価表に掲載されている材料・労務といった基礎単価データを改定するための基礎資料作成業務を実施しています。これらの業務で得たノウハウを活用し、平成24年度から積算業務の効率化・コスト縮減を支援するため、県・市町等が共同で利用する「兵庫県積算共同利用システム」を構築・運営しています。なお、平成28年度からは45団体(神戸市を除く全市町を含む)が利用する予定です。

兵庫県積算システム協議会の運営



- 兵庫県積算システム協議会
システムを運営するため協議会を設置しています
【構成団体】
兵庫県、県下41市町、関係5団体事務局(当センター)
- 兵庫県積算共同利用システムの利用状況
H27年度現在、兵庫県、35市町、関係4団体が利用
5市町にデータを配信

事例 2

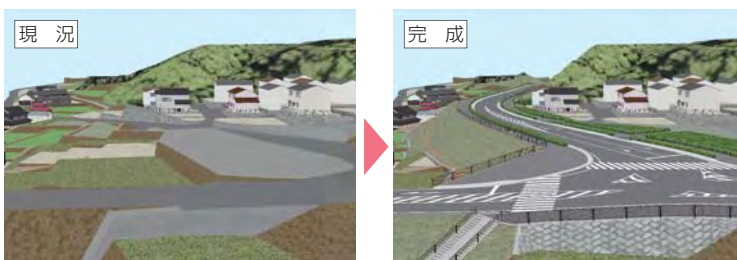
CG技術による支援業務

平成14年度より県・市町が実施する公共事業において、住民に対して分かりやすい情報提供、アカウンタビリティの向上を図るとともに、住民の参画と協働活動を支援するためCG(コンピュータグラフィックス)を活用した事業計画説明資料の作成など行政と住民のコミュニケーションの橋渡しを行う支援業務を実施しました。

主な事業箇所

国道372号丹南バイパス道路改良事業(篠山市)
阪神本線連続立体交差事業(甲子園〜武庫川駅間)
都市計画道路山手幹線街路事業(芦屋市)
兵庫らしい道路景観創出ガイドライン策定業務
道路景観・地域マスタープラン CGハザードマップ作成 等

制作事例:国道372号丹南バイパス道路改良事業



複雑な工事の工程を現況→工事中→完成と時系列にわかるようVR(VirtualReality)の技術を用いて表現しました。

事例 3

ニーズに合わせた研修の拡充

平成8年設立当時から、高度な技術力と専門知識を持った職員を養成するため、県や市町の土木職員を対象にした技術研修(研修会、技術講習会、現場見学会等)を開催し、職員のレベルアップを図っています。

研修は、県・市町の土木職員を階層毎(新規採用職員、主任、主査、主幹・課長等)に分類した階層別と専門分野別に区分し、実施しています。

特に、専門分野別研修については、建設事業を取り巻く環境や社会情勢の変化に対応するとともに、受講生に実施するアンケート調査等により、研修のニーズの把握に努め、研修内容の拡充を図っています。具体的には、平成21年台風9号により発生した佐用町豪雨災害を受け平成22年度から災害復旧研修を、また、インフラメンテナンスが着目されるようになったことから、25年度から舗装修繕・設計演習、26年度から橋梁点検講習会を開催しています。

設立当初は県・市町の階層別研修を3回開催し、受講者192名でスタートしましたが、各種講習テーマを追加することにより、現在では演習を含めた講習会を15回、まちづくり担当研修を2回、現場研修を2回に加え、橋梁点検講習会を4回開催し、平成26年度実績で受講者1,142名となっています。

今後も、引き続き、県・市町のニーズに合った研修を充実させ、土木職員育成の支援を図っていきます。

研修状況



事例 4

防災エキスパートの派遣

当センターでは平成10年より災害時に備え、公共土木施設の整備や管理に長年携わった兵庫県、市町職員等のOBが経験とノウハウを活かしボランティアとして活動する「兵庫県防災エキスパート登録制度」を事務局として運営しています。

活動実績

平成11年: 9月7日の集中豪雨における増水状況の調査
平成21年: 8月に発生した台風9号に伴う被害状況の把握や復旧支援のために12名を被災地に派遣
平成26年: 8月の丹波豪雨に伴い、丹波市からの要請に基づき2日間4名(延べ6名)を派遣

活動状況



登録者数(2015年12月1日現在)

出身団体	人数
国	2
県	256
市町	14
その他	1
合計	273

事例 5

ひょうごE-DASHによる災害復旧支援

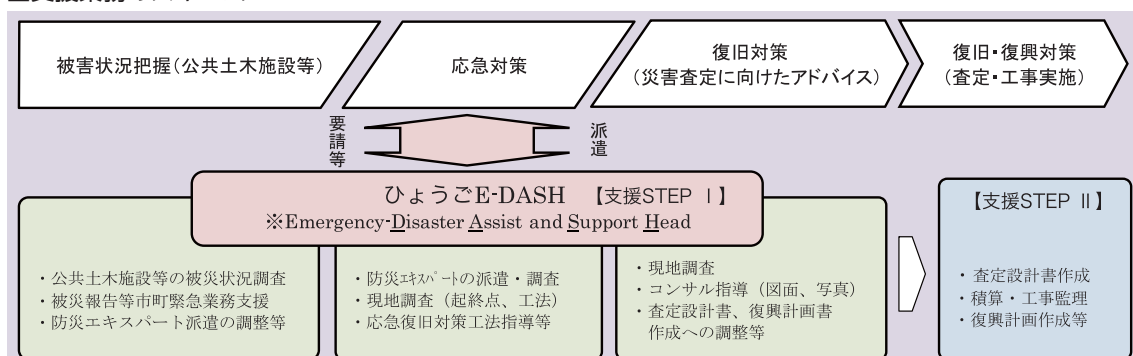
県内市町において大規模災害が発生した際に、公共土木施設等の被災状況をいち早く把握し、応急対策や災害復旧に係るアドバイスをを行う「緊急災害復旧支援派遣隊(ひょうごE-DASH)」を平成27年6月に創設し、市町の災害復旧の迅速かつ的確な実施を支援するべく体制を整えています。

※ひょうごE-DASHとは:【略号】Emergency - Disaster Assist and Support Head

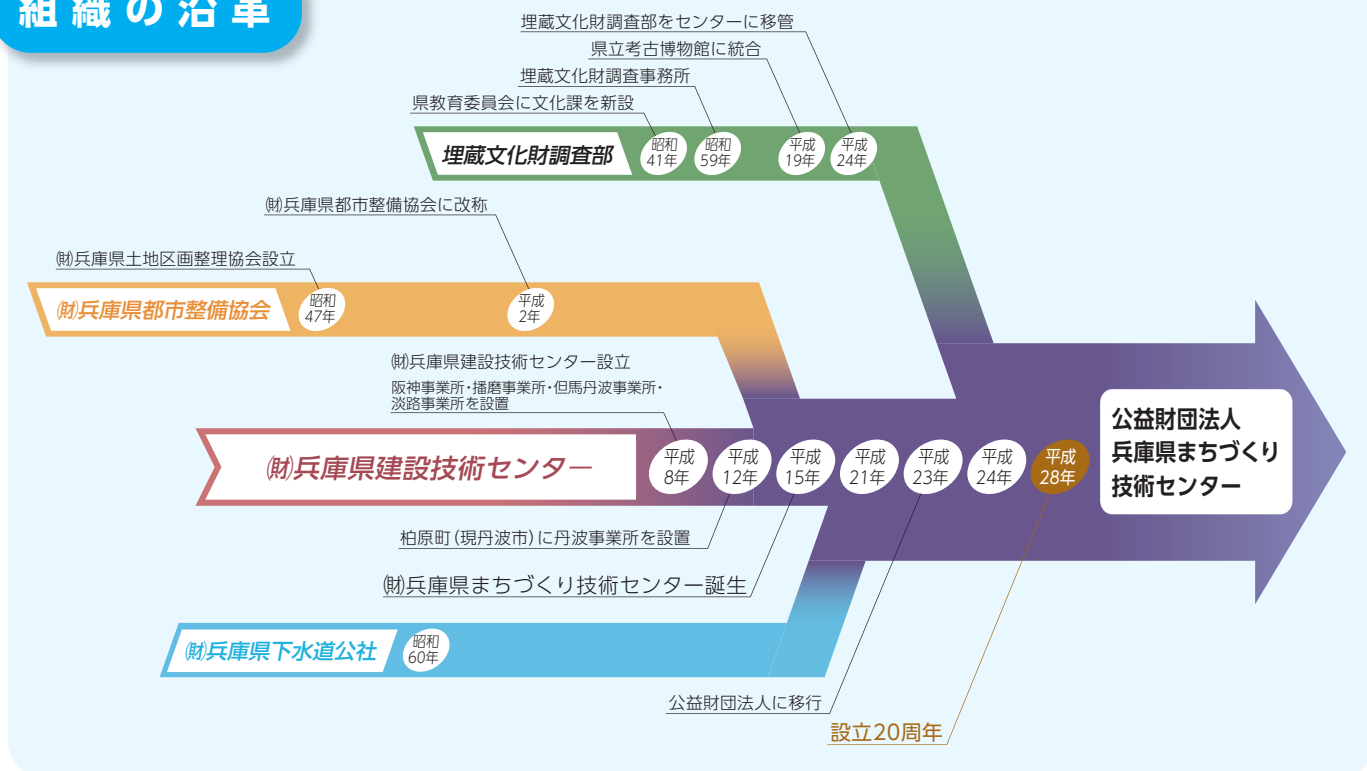


H27.6.11 発隊式

■支援業務のスキーム



組織の沿革



総務部 企画部 建設技術部 下水道事業部 まちづくり推進部

〒650-0023
神戸市中央区栄町通6-1-21(神明ビル5・6F)
TEL 078-367-1230(代) FAX 078-367-1232
E-mail info@hyogo-ctc.or.jp
URL http://www.hyogo-ctc.or.jp

埋蔵文化財調査部

〒675-0142
加古郡播磨町大中1-1-1(兵庫県立考古博物館内)
TEL 079-437-5561 FAX 079-437-5591

阪神事業所

〒662-0911
西宮市池田町9-7-216(フレンテ西館2F)
TEL 0798-34-2275 FAX 0798-34-2285

播磨事業所

〒670-0965
姫路市東延末5-83(播磨漁友会館3F)
TEL 079-281-3377 FAX 079-281-3388

但馬事業所

〒668-0055
豊岡市昭和町2-56(サカモトビル2F)
TEL 0796-29-3031 FAX 0796-29-3073

丹波事業所

※平成27年12月に移転しました

〒669-3309
丹波市柏原町柏原3610番1
(丹波市商工会 柏原支所会館)
TEL 0795-73-3750 FAX 0795-73-3660

淡路事業所

〒656-2132
淡路市志筑新島5-1
TEL 0799-60-1950 FAX 0799-60-1960

武庫川流域下水道管理事務所

● 武庫川下流浄化センター

〒660-0087
尼崎市平左衛門町18-4
TEL 06-6419-4231 FAX 06-6419-3379

● 兵庫東スラッジセンター

〒660-0087
尼崎市平左衛門町65-10
TEL 06-6411-8356 FAX 06-6414-2225

● 武庫川上流浄化センター

〒651-1503
神戸市北区道場町生野字飛瀬
TEL 078-985-6621 FAX 078-985-6623

加古川流域下水道管理事務所

● 加古川下流浄化センター

〒675-0025
加古川市尾上町養田1687-2
TEL 079-424-1313 FAX 079-424-1314

● 加古川上流浄化センター

〒675-1345
小野市黍田町398-2
TEL 0794-63-5554 FAX 0794-63-7540

揖保川流域下水道管理事務所

● 揖保川浄化センター

〒671-1241
姫路市網干区興浜字第一味岡2093
TEL 079-274-2922 FAX 079-274-2925

● 兵庫西スラッジセンター

〒671-1236
姫路市網干区網干浜240-2
TEL 079-272-1637 FAX 079-271-2114